

## 1 はじめに

「普通においしい」等に見られる「普通に」は、NHKのテレビ番組『みんなでニホンGO!』(2010年4月15日放送)<sup>1</sup>や2011年には毎日新聞の記事<sup>2</sup>(2011年1月25日)等でも取り上げられ、その意味が議論されている。インターネット上でも、「期待通り」「なかなか」「そこそこ」「とても・非常に」「お世辞抜きに・素で・他意なく」等様々に解釈されることが指摘されている<sup>3</sup>。また、デジタル大辞泉の「ふつう」の項には次のような説明がある<sup>4</sup>。

### (1) ふ - つう【普通】

【一】[名・形動] 特に変わっていないこと。ごくありふれたものであること。それがあたりまえであること。また、そのさま。「今回は普通以上の出来だ」「普通の勤め人」「朝は六時に起きるのが普通だ」「目つきが普通でない」

【二】[副] 1 たいてい。通常。一般に。「普通七月には梅雨が上がる」

2 (「に」を伴って) 俗に、とても。「普通においしい」

[補説] 【二】2は、「普通におもしろかった」のように、称賛するほどではないが期待以上の結果だったという意味合いで、肯定的な表現と組み合わせて2000年代から用いられるようになった。

([補説]は2017年に実施した「あなたの言葉を辞書に載せよう。2017」キャンペーンでの「普通」への投稿から選ばれた優秀作品。)

最近では「普通によせつけない強さ」「普通にレジェンド」<sup>5</sup>のような例もある。このような状況を鑑みると、「普通に」は(全世代に認められるかは別として)より多義的な使用がなされるようになってきていると言えるだろう。

### 解決すべき問題

- 上記に類する用法における意味はどんなものか？
- 上記の意味用法(の変化)はどう説明可能か？
- なぜ違和感や混乱が起こるのか？

## 2 先行研究と本発表の立場

### 井本(2011)

「普通に」の意味用法を3つに分類し、高い程度を表す用法(下記の3つ目)に焦点を当てて分析。「普通に」の語彙の意味の変化を否定し、副詞的成分が持つ「文脈敏感性」という概念を提示。その上で、当該解釈が「標準値よりも低い程度が前提として導入されるという文脈的条件および副詞的修飾関係という構文的性質によって複合的にもたらされる現象」であることを主張。

### ■動作様態副詞的用法

#### (2) a. 動詞が表すウゴキのサマを修飾限定する用法

→ 何が[普通]であるかは当該動作や行為に対する社会通念(言語外の事実)に依存する。

映画だからといって演技をせずに、普通に話してください。

福島から米沢まで、普通に走れば45分で到着する。

#### b. 言語外現実の知識に依存する相対的なサマという性質は周辺の事例と考えられる例をうむ。

(「それが動作主にとっては[普通]であると考えられるサマ)」

ナイフを向けられても春夫は普通に携帯をいじっていた。/ 夏子は床に落ちたクッキーを普通に食べた。

(「主体の心的状態・主体の態度的ありよう」を表す副詞的成分(新田2002)に相当。)

春夫はしぶしぶ携帯を床に置いた。/ 夏子は素直にクッキーをごみ箱に捨てた。

<sup>1</sup>NHK「みんなでニホンGO!」制作班(2010)

<sup>2</sup>[https://www.ndsu.ac.jp/blog/article/index.php?c=blog\\_view&pk=15753758652a15d8efd9fa2c758c6701d4d1ef3ea4&category=&category2=で確認可能](https://www.ndsu.ac.jp/blog/article/index.php?c=blog_view&pk=15753758652a15d8efd9fa2c758c6701d4d1ef3ea4&category=&category2=で確認可能)

<sup>3</sup><https://withnews.jp/article/f0181016000qq0000000000000000W05h10801qq000018107A>,

<http://fuji-san.txt-nifty.com/osusume/2011/01/post-b969.html> など

<sup>4</sup><https://www.weblio.jp/content/普通に>

<sup>5</sup>いずれもファギュアスケート羽生結弦選手の優勝に対するインターネット上でのコメント

## ■注釈副詞の用法

- (3) 修飾成分が表すサマを修飾限定するのではなく、表されるコトガラ（叙述内容）に対する話者の評価・注釈を表す（工藤 1983, 2000）。命題内で修飾関係を構成するのではなく、叙述内容の外側で叙法を規定する叙法副詞（モダリティに関わる副詞）に近づいている。

ひとりカラオケも普通に行くよね。 / 教室で携帯の充電、普通にするよね。

## ■程度副詞の用法：スケールにおいて段階的属性の程度値を有標的に指し示す

- (4) 「おいしい・かわいい」等が含意するスケールの属性の程度値が無標の標準値ではなく、「すごく/とても/普通に/まあまあ/そこそこ」が定める値であることが表される。このとき、「普通に」はスケールの中間点=標準値よりもやや高い程度であるような内省が確かにある。

- a. 学食のラーメン、{すごく/とても/普通に/まあまあ/そこそこ} おいしいよ。  
b. 春夫のカノジョ、{すごく/とても/普通に/まあまあ/そこそこ} かわいいよ。

「注釈副詞の用法」を分析対象外として、論点を「「普通にかわいい」が「かわいい」よりもかわいいと解釈される理由を、「普通に」が一種の逆説的文脈を前提とするという文脈感性を持っているため、「普通」のレベルが相対的に高く感じられるとする（「普通に」がスケール上の高い位置を指すという語彙の意味を持っていたり、普通であることに対する社会的価値観が変化したわけではない）。

- (5) a. 学食のラーメン、まずいって聞いていたけど、普通においしかった。  
b.??学食のラーメン、おいしいって聞いていたけど、普通においしかった。  
c. 泉さんのカレ、ダサイって聞いていたけど、普通にかっこよかった。  
d.??泉さんのカレ、かっこいいって聞いていたけど、普通にかっこよかった。

## 西村 (2016)

否定的文脈は必ずしも必要ない（注釈的解釈の延長として説明）

- (6) さっきからかみなりが鳴ってる。音がでかくてふつうに怖い。。(四谷 2015)

「普通に（かわいい）」の多義性を提案

- (7) a. [友人が自分の彼女は可愛くないと言っていたが、いざ会ってみると美人だった時：標準程度否定文脈が存在する場合]  
お前の彼女、普通にかわいいじゃん。  
→ 友人の先行発話によって形成されていた標準程度否定文脈を更新 (cf. 井本 2011)  
b. [街である見知らぬ女性を見て：標準程度否定文脈が存在しない場合]  
ねえねえ、あの子、普通にかわいくない？ 読者モデルみたい。  
→ [あの子が可愛いと感じる] コトは、話者にとって普通（当然）と感じられるホドのことだ

## 本論の立場と主張

「普通に」の意味用法の変化を、「主観的述語に対して客観的（一般的）尺度を用いる」ことによる「主観的述語の客観化」と、「(間)主観化」(Traugott (2003) 等) による慣習的推意 (Conventional Implicature; Grice (1975), Potts (2005)) 表現である発話態度副詞への拡張、すなわち語彙的（・語用論的）意味の変化として捉える。一部類似する現象として、近代から現代にかけて同様の変化を受けたと考えられる「正直、彼は苦手だ」のような文における「正直 $\phi$ 」の近代作家における使用データを援用する。

## 3 話者の発話態度を表す「正直 $\phi$ 」

### ■東泉・高橋 (2021) ー現代語における「正直」

BCCWJ<sup>6</sup>および「日本語話し言葉コーパス」<sup>7</sup>を用い、現代日本語における「正直」の副詞用法の使用実態を調査。「正直 $\phi$ 」や「正直(に)言って」「正直な話」等、副詞句(節)として用いられているものを「正直」の副詞用法

<sup>6</sup>現代日本語書き言葉均衡コーパス (<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search>)

<sup>7</sup><https://chunagon.ninjal.ac.jp/cs/j/search>

と定義し、それらが「正直」全用例中の半数、その中でも「正直 $\phi$ 」「正直言ッて」の2種類で8割近くを占めることを指摘。中でも、BCCWJの話し言葉的な文が多用されるレジスター「ブログ」「知恵袋」での使用の割合が高いとする。

- (8) 『日本国語大辞典 第二版』:「正直 $\phi$ 」の初出は19世紀以降。「気持や行動が偽りや見せかけでないさまを表わす語。本当のところ。」  
しかし正直未練が残るぜ。此美しい顔が見おさめだと思やア  
(『日本国語辞典 第二版』人情本・英対暖語四・二三章, 1838年)
- (9) a. 「正直」の副詞用法は、BCCWJにおいても、話し言葉のコーパスにおいても広く使用されている。  
b. 「正直」の全用例中、半数以上を副詞用法が占めている。  
c. 「正直」の副詞用法で多用されている表現は「正直 $\phi$ 」「正直言ッて」であり、この2種類で全体の8割近くを占めている。  
d. 「正直 $\phi$ 」以外の副詞用法で、「正直」と共起する表現は、「言う」「話」など発話に関するものであり、話し手がこれから述べるのが本音や本心であるという前触れのメタ言語的機能を果たしている。「正直 $\phi$ 」の機能も同様である。

趙 (2013): 近現代における漢語副詞の特徴として、次のような点を挙げている

- (10) a. 命題の外側から働く〈陳述の副用語〉には、助詞を伴わない $\phi$ 型の漢語副詞が多い。  
b. 近現代語の完成期(1960年以降)には、 $\phi$ 型を含め、「厳密にいうと(いえば)」「正直にいうと(いって、いえば)」「率直にいうと」「端的にいえば」「正確には」などの話者の述べ方に関わる漢語副詞の使用が増加する(近現代語の形成期(1868年から約20-30年)のデータには、「正直に白状してしまうが」(夏目漱石『坊ちゃん』)の1例しか見当たらなかった)

### ■近代作家における「正直 $\phi$ 」

「正直、彼が苦手だ」のような話し手の心的態度を表す「正直 $\phi$ 」の使い方について、青空文庫<sup>8</sup>における「正直」の分布は表1のようになる<sup>9</sup>(便宜上、全データ3431例のうち、作家による使用例が80以上のものを提示している)。

表1: 近代作家における「正直 $\phi$ 」

	「正直」の総数	「正直 $\phi$ 」	「正直に言えば」等の例 <sup>10</sup>
吉川英治(1892-1962)	401	48	10
岡本綺堂(1872-1939)	380	0	8「正直のところ」
野村胡堂(1882-1963)	327	0	25
山本周五郎(1903-1967)	150	0	32
夏目漱石(1867-1916)	132	0	10
宮本百合子(1899-1951)	115	0	3
谷崎潤一郎(1886-1965)	111	0	55
中里介山(1885-1944)	108	0	13
国枝史郎(1887-1943)	80	0	12

表中では吉川英治だけが現代日本語における「正直 $\phi$ 」と同様の使い方を比較的頻繁にしている他は、「正直に言えば」のように言い換えられる「正直 $\phi$ 」の用法は見つからなかった<sup>11</sup>。このことと東泉・高橋(2021)の現代語における観察結果から、話し手(もしくは話し手の共感焦点(empathy focus; EF, ex. 「正直、あなたはどう思うの?」)の態度を表す用法は、初出が1838年であったとしても、少なくとも近代以降に定着してきたもので、「正直(に)言えば」に類する表現に関連して出現してきたと考えられるが、現代の我々の直感では、「正直 $\phi$ 」という表現が

<sup>8</sup><http://www.aozora.gr.jp/index.html>

<sup>9</sup>発話態度副詞的な「正直 $\phi$ 」の数値は内数である。また、吉川英治では「正直 $\phi$ 」に類すると思われる「正直。」を含む。

<sup>11</sup>その他の作家に関する「正直 $\phi$ 」と思われる例は15例であった(林不忘(4)、正岡容(3)、日野葦平(2)、折口信夫、国木田独步、近松秋江、林芙美子、三島霜川、三好十郎(各1))

(他に表現を補うことなく単独で) 話者や EF の命題に対する態度表明を表す副詞として確立しているとする方が自然であろう。現代日本語では、話し言葉より書き言葉において「正直  $\phi$ 」の割合が高い(東泉・高橋 2021) ことから考えてもこのことは支持されると思われる。

ちなみに、Kong and Qin (2017) では、英語においては I tell you honestly のような形をもとに、語彙化された発話行為副詞の honestly が 1830 年代から出現するとする分析がなされている。また、Tagliamonte (2012: 220) によれば、現代英語においても、方言によっては We had it on fire one night, *honest*. のように、接尾辞なしで副詞的に使用される形容詞の例がある。

## 4 「一般スケール」の選択、話し手の心的態度を表す「普通に」

### ■形容詞用法の減少と副詞用法の増加

文副詞としての「正直  $\phi$ 」の出現・確立と類似の変化が現代において「普通に」にも起こっている?

表 2: 青空文庫、BCCWJ における「普通」

	青空文庫	BCCWJ 「小説」「教科書」	BCCWJ 全体
全体	3851	1781	16844
普通の	2464 (64.0%)	849 (47.7%)	5594 (33.2%)
普通に	226 (9.2%)	184 (10.3%)	3056 (18.1%)
普通、	51 (1.3%)	76 (4.3%)	484 (2.9%)
普通は	33 (0.9%)	89 (5.0%)	926 (5.5%)

### ■「普通に」の基本的曖昧性

(11) 宿題くらい普通にやりなさい。

普通のやり方でやりなさい。(動作様態) / 宿題をやることは普通なことなのでやりなさい。(注釈)

\*派生の方向性としては、おそらく「動作様態 → 注釈」であると思われるが、本発表においてはそこは議論せず、この2つを基本的な用法と仮定する。

「普通(に)」は、「ありふれた、一般的に」という意味を持つが、典型的には社会的通念となっている(と話し手が判断する)ある程度一般的・客観的な基準や規範が存在すると思われる。

### ■動作様態用法の拡張(ある種の客観化)

(12) a. 修飾する述部(VP)の表すやり方等が「通念的基準」に合致していることを表す。

- (肘をついたり口いっぱいにはおぼったりせずに) 普通に食べなさい。  
(「通念的基準通りの食べ方をしなさい。」)

b. (12a) を、段階的意味を読み込める主観的意味を表す述部に適用:

「一般的なスケールに立脚すればおいしさの程度が通念的基準通り」「(本来おいしさは人それぞれだが、敢えて一般にあてはまるスケールを使えば)」というような、話者の発話態度を表す解釈

(青空文庫のデータでは比較的出現数が少なく、多くとも4例。うち、形容詞の例は2例)

→ 否定的な文脈で用いられると肯定的、肯定的な文脈で用いられると否定的な意味合い

- 老人の名は土彦と云った。岩石人の長(おさ)であった。白髪が肩まで垂れていた。彼の右腕は千切れていた。身長(せい)だけは普通に高かった。左手に玉を握っていた。それは勾玉管玉であった。  
(国枝 史郎(1922-1926)『葛木曾根』)  
→ 尋常でない特徴の中で、背の高さだけは一般スケールを用いて言及可能で、多くの人が「高い」と認める値を指す。
- 「どうも怖(おそ)ろしい人だね」と追いついた孤堂先生が云う。怖ろしいとは、本当に怖ろしい意味でかつ普通に怖ろしい意味である。(夏目漱石(1907)『虞美人草』)  
→ 「恐ろしい」というのは色々意味がありうるが、「一般スケールを用いる」ことを表明

- 普通においしかったけど、私の好きなタイプのパンケーキじゃなかった笑  
(<https://tabelog.com/rvwr/005560932/rvwtdl/B229395642/>)  
普通においしかったけど、私は断然錦糸町の麵魚さんが好き  
(<https://ameblo.jp/snow-white-83/entry-12443519377.html>)  
→ 一般スケールを使えば普通のおいしさと言えるが、自分のスケールではそこまでではない。
- 学食のラーメン、まずいって聞いていたけど、普通においしかった。(井本 2011)  
→ 誰かがまずいと言っていたが、一般スケールを用いればおいしいと言える。

「とても」や「ある程度」等の使用はもともと「一般スケール」に限定されず、話し手自身の持つ（主観的）スケールを使用することが可能。一方「普通」は、原義が「一般的な基準に従えば」のような意味であることから、そこに用いられる基準そのものが「一般的なもの」である。したがって、それがスケール表現に拡張適用された場合も、そこに用いられるスケールは「一般に想定される（と話し手が考える）スケール」であり、あくまで「それを敢えて用いると（標準値程度である）」というメタ的な意味を持つ。ここでは「おいしい」等の主観的表現に対して客観的なスケールが用いられており、いわば「主観的表現の客観化」がなされている<sup>12</sup>。

## ■注釈用法の拡張（間）主観化

(13) a. その文の命題内容が「通念的基準」に合致していることを表す（注釈的解釈。「普通、…」と同様）。

- 朝ごはんくらい普通に食べなさい。（「朝ごはんを食べることは通念的基準通りだ。」）
- 普通に主婦です。（「主婦であることは通念基準通りだ。」）
- シャツのカフスがどう間違えて縫ったものか特別せまくて普通にボタンをとめてからでは手とおしにくかった。（宮本百合子 1946 『風知草』）
- 丸のなかに井の字の暖簾を染め出してあるので、普通に丸井と呼び慣わしているが、ほんとうは井沢屋というのである。（岡本 綺堂（1985 版）『半七捕物帳』）  
普通に、袖のボタンを止めないで手を通した。（普通に > NEG）
- でもベア先生がめっちゃ強いので間違った選択肢でも普通に死なないから安心して選択できるし、時折へえ～となるサバイバル知識があるのがよかった（凡人が真似すると死ぬ模様）。  
(<https://filmmarks.com/movies/97937/spoiler>)

b. その文の命題内容が「発話主体の（主観的）通念基準」に合致していることを表す（主観化）

- 朝ご飯は普通に食べない / 普通に朝ごはんは食べない。（「話者の習慣として」朝ご飯を食べない。）  
cf. ??健は普通に朝ごはんを (は) 食べない / ?\*普通に健は朝ごはんを (は) 食べない。  
（「朝ごはんをたべないことは健にとって普通だ」という解釈で）  
この「普通に」は話者指向？ 統語的には少なくとも TopP より上？

c. 「発話主体としての自分の聞き手に対する状態や態度が通念的基準通りだ」：「普通に言って/判断して」「素直に」「お世辞抜きに」（「正直  $\phi$ 」に類似；間主観化）

- 普通においしい。（「大げさでなく、普通に言って/判断してもおいしい。」）
- さっきからかみなりが鳴ってる。音がでかくてふつうに怖い。（西村 2016）
- 若い女の子はおしゃれなので行き過ぎるぐらい敏感な子が多いです。シャネルやルイヴィトンにクリスチャンディオールなど高級ブランドに惹かれて競うようにそれを主張しすぎます。バーキンのバックからルイヴィトンの財布が出てくるのが大げさでなく普通に多いぐらいです。（<https://belcy.jp/38378>）

修飾対象が名詞文になると、「普通にレジェンド」や「普通に寄せ付けない強さ」というような表現（「一般スケールの適用」の解釈も可かも）が出現するが、発表者を含め、多くの話者にとって、これらの表現は（まだ）容認し難いように思われる。

## 5 混乱の原因と違和感の正体

- (12)、(13) のような多義性を持ち、文脈によっても一律に解釈が決定しにくい場合も多い。

<sup>12</sup>この部分に関しては首藤(2015)の「残念な人」のような「残念」の用法と並行的に扱えるかもしれないが、詳細は今後の課題である。

- 本来、「普通に」は、ある程度社会的に共通した「普通のやりかた（動作様態）」に言及することが前提となっていた。それが「おいしい」「大きい」「寂しい」のような、主観的意味を表す段階的屬性形容詞に適用され、「一般スケールを用いる」ことを（CIとして?）指定する。「普通においしい」に対して（主に年輩者が感じる）違和感は、
  - 本来様態にしか言及しない「普通に」を「とても」や「やや」と同様にスケール上の範囲を表すものとして用いているように見えること（12b）
  - 本来は主観を表す「おいしい」に対して一般スケールを想定していること

にあると思われる。

- 本来「文の表す命題内容が、社会的に存在する（と話し手が思っている）通念基準に合致していることを述べる」という注釈的「普通に」が、「発話主体の（主観的）通念基準」に合致していること（主観化）や「発話主体自身の聞き手に対する態度が通常通りであること」を表明する（間主観化）ように変化してきていると思われるが、その（間）主観化の変化をフォローしない話者は、その意味合いを理解しない。
- 以上の変化は、一般に想定されると考えられる「主観化 → 間主観化」（Traugott 2003）という変化と、「主観的述語を客観的なスケールで評価する」ことによるある種の「客観化」という相反する方向の変化が混在する。

## 6 課題

- 理論的形式化
- 「普通に」は「正直 $\phi$ 」と異なり、「に」がついた形で用いられる。これは「正直」がもともと人の性質や行動に言及するため、「に」の支えがなくても「正直 $\phi$ 」で話者指向（話者の心的態度）を表すことが可能なのに対して、「普通」はそれだけでは必ずしも人を言及するものではなく、「普通 $\phi$ 」はすでに別の意味用法があるので「に」まで必要？
- 主観的述語が「普通に」の主観化を進める原因？

### 謝辞

本研究は、JSPS 科研費課題番号 16K02652 の助成を受けている。本ワークショップメンバー（中谷健太郎先生、澁谷みどり先生、森山倭成さん）および郡司隆男先生、板東美智子先生、新井文人さん、高橋有香さんには示唆に富むコメントや質問をいただいた。ここに記して感謝申し上げます。

## 参考文献

- Grice, Herbert P. (1975). Logic and conversation In *Speech acts*, pp. 41–58. Brill.
- Kong, Lei. & Qin, Hongwu. (2017). The Development of Manner of Speaking Markers in English and Chinese: Pragmaticalization, Grammaticalization and Lexicalization. *Journal of Pragmatics*, **107**, 16–30.
- Potts, Christopher. (2005). *The Logic of Conventional Implicatures*. Oxford University Press.
- Tagliamonte, Sali, A. (2012). *Variationist Sociolinguistics*.
- Traugott, Elizabeth Closs. (2003). From Subjectification to Intersubjectification In Hickey, Raymond. (Ed.), *Motives for Language Change*, pp. 124–142. London: Cambridge University Press.
- 井本亮 (2011). 「「普通にかわいい」考」. 『商学論集』, **79** (4), 59–75.
- NHK「みんなでニホン GO!」制作班 (2010). 『正しい日本語は本当に“正しい”の? みんなでニホン GO! オフィシャルブック』. 祥伝社.
- 工藤浩 (1983). 「程度副詞をめぐって」. 渡辺実 (編), 『副用語の研究』. 明治書院.
- 工藤浩 (2000). 「副詞と文の陳述のタイプ」. 森山卓郎・仁田義雄・工藤浩 (編), 『日本語の文法 3 モダリティ』, pp. 161–234. 岩波書店.
- 首藤佐智子 (2015). 「「残念な」の客観化にみる語用論的制約操作とポライトネスの希薄化現象」. 加藤広重 (編), 『日本語語用論フォーラム 1』.
- 趙英姫 (2013). 「近現代の漢語副詞の成立」. 野村雅昭 (編), 『現代日本漢語の探究』, pp. 214–233. 東京堂出版.
- 西村恵美 (2016). 「「普通にかわいい」再考: 高い程度を表すと解釈される副詞的成分「普通に」の新用法に関して」. 『英語学英米文学論集』, **42**, 43–63.
- 新田義雄 (2002). 『副詞的表現の諸相』. くろしお出版.
- 東泉裕子・高橋圭子 (2021). 「現代日本語における漢語「正直」の副詞用法」. 『言語資源活用ワークショップ (Proceedings of Language Resources Workshop) 発表論文集』, 6 号, pp. 249–258. 国立国語研究所.
- 四谷厚子 (2015). 「「現在進行中の意味拡張に関する実証的研究 – 「普通（に）／大丈夫／痛い／やばい」の意味理解と自然性判定に着目して –」」. ポスター発表, 第四回日本語用論学会年次大会.
- コーパス、辞書等  
 青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/index.html>)  
 現代日本語書き言葉均衡コーパス (<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search>)  
 デジタル大辞泉 (<https://www.weblio.jp/cat/dictionary/sgkdj>)